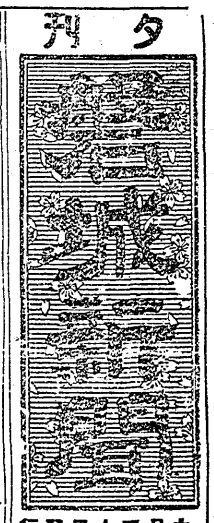

夕刊
九月二十日發行
定價一ヶ月金六拾錢（前金）
廣告料金（一行）金五拾錢（日曜祭日）金六拾錢（特別）金壹圓（社會面）
發行所　磐城新聞社
福島縣石城郡平町大字平字山町十六番地
電話五番
（日曜祭日翌日休刊）

彼等の死

——(2)——

前田勝江

PITY IS AKIN TO LOVE

就職運動に出かけての歸り途、N坂を下る時だつた突然胸がきりきりとしぼられる様に痛んで來ると痰が咽喉に引つかゝる様な氣がしたので、彼は反射的に痰をのぞくために猛烈に咳をした

するとなまぬるい眞赤な粘液が彼の口をおうた兩手から、どろ〳〵ともれ出して來た

『うむ！やつぱり咯血か……』

彼にとつては第五回目の咯血だつたので、決してあわてる様な事は無かつた。彼としては今迄の經驗から言つて、咯血の時に食鹽水を飲んで安靜にさいして居れば決して心配する迄の事でもない事を知つて居た。それで彼は自分自身の体を動かしたく無かつた——と云つた所で此の山道のN坂では附近に一軒の家のあるわけでなし、ことに太陽はもう西山の彼方に沒して、あたりに暮色につゝまれて人つ子一人通る様子も無かつた

彼は幸な事に先の咯血の後は咳をする様子もなく、又續いての咯血もないので突然胸がきりきりとしぼられる様に痛んで來ると痰が咽喉に引つかゝる様な氣がシットして居た。そして或居た

すると丼分位たつてから歩いて家へ歸る考へをして

静かな小さな聲で彼にさゝやいた

『又吐いたの？先日の様に食鹽水を御飲みになればいゝのネ、ちや一寸待つていらつしやい、私今からすぐ家へ行つて持つて來てあげるから、それ迄少しの間辛棒していらつしやい、ネちや行つて來る！』

誠哉はほとんどとかけ足で坂を下りて行くマチ子の後姿を見送りながら、いつも

『ネ、誠哉さん、一体どうしたの？　御氣分でも惡いの？』

彼はマチ子を一寸見たが又すぐにおほむけになつたなせならば彼は咯血直後に話する事は体にとつて非常に惡い事である事を知つて居たからだつた。だが彼が何を言はなくともマチ子は惣てを知つたらしかつた。そして自分の体を彼の眞上にのしかゝる様にしながら

『いくら脫んだところで、この一枚様の短筒にはかなふまい。命が惜くば、ちツとしてゐやがれ、ちよつとでも動いたら、でんがく刺

小氣味よげに、一枚は笑れたらしかつた

このとき、突然一匹のくましい犬が、猛然として庭から躍り込んで來た

『あッ、熊か』

と、靜香が叫んだが、熊はまッすぐ一枚の方へ走つて

わうッ。と、一聲吠えるや猛然として躍り上つて、一枚の咽喉のあたりを噛みついた

『わッ』

一枚は、咽喉を唸ひ破られ、苦痛の叫びをあげ、ばたりと倒れ苦しげにのたうちまはつた

×

秋晴れの、ちと肌寒いある朝、上州高崎宿の旅籠屋を立出でた盧無僧姿の鐵之助と、櫛吉と、馬子の太七と、靜香と、そして熊

『今朝は、馬鹿に寒うござりますなア』

太七は道中合羽の襟に首をそぼめて歩きながらいつた

『うむ、めつきり涼しうなつた』

天蓋の中で、鐵之助はうなづいた。尺八を手にしてゐた

『太七さんは、合羽を着てゐながら、寒いなんて意氣地がねわや。おいらを見なよ。足袋だつてはいてやしねわせ』

櫛吉は、くり〳〵した眼を太七の方へむけて例の樫の棒を握つてゐる右手をわざと力んでみせた

『ホホホ……。櫛吉さんがいちばんいつも元氣ですことね』

と、頰笑む靜香、すげ笠に竹の杖、白脚絆に草鞋を

親切にしてくれるマチ子に對してどんなに感謝していゝのかわからない位だつた

『うぬッ』

すばやく刃を引いて、脫兎の如く椽側へ走り出てゐた

『逃げるかッ、待ていッ』

鐵之助は叫んで、椽づたひに駈け出した玄內の後を追はんとしたとき、またもれた

『ハヽヽ』

と一枚はわらつた

『お氣をたしかに、おもちなされませ』

靜香は、鐵之助をいたはりながら一枚を睨んだ

『あゝッ』

靜香は、おもはず鐵之助の側へ駈け寄つた

『傷は——』

と、いつたとき

『そら〳〵、もう一發、お！』

一枚は、二人をねらつてゐるうちに、玄內を出來るだけ遠くへ逃げさせる腹らしいのだ

玄內は、もう表の方へ遁

或る日

宇田ふみ

○門べより庭を掃き來てこのあした熟れたるくみの實をとりて食べり

○晝すぎの靜義にはやく心倦みぬ窓の青葉にただ陽は照りて

山本よし子

○有明の月さやかなり遠空に蛙の聲の高く響かふ

○今日一日師の見えざるに訪へば姫百合いけて病みて居たまふ

關本達子

○砂嚢に吾が立ちもつつ白き帆の遠く光るを見てゐたりけり

一、題詠　風。思。　廿一日迄締切延期

講談　浪人長屋

日岐武志作

(197)　月草道子畫

秋の街道

と、かすかに叫んだのは鐵之助、おもはず二三歩まへへ出た。左の肩先に、血見舞ひするぞ』

と、誰かゞいつた

秒の間から、にや〳〵とわらつてゐる短筒の二枚の眼と、筒口が二人の方をねらつてゐるのであつた

『動くと、打つぞ』

に、どかんとひと打ちだぞ』

一枚は、二人をねらつてゐるうちに、玄內を出來るだけ遠くへ逃げさせる腹らしいのだ

玄內は、もう表の方へ遁

と、いつたとき

『そら〳〵、もう一發、お！』

一枚は、二人をねらつてゐるうちに、玄內を出來るだけ遠くへ逃げさせる腹らしいのだ

玄內は、もう表の方へ遁

磐城炭鑛を見る

慶大經濟部

秋山將義、安齊博、楠田敬也
西恭助、齋藤義雄

上

今夏初めて磐城炭鑛綴坑に入坑、約二週間炭鑛生活をする

坑內は地上で考へられるものと餘程其の趣を異にし體驗者でなければ、如實に想像する事は至難である。

堅坑二百米を昇降機で降りると、先づ氣が附くのは氣壓の變化である。卽ち氣壓軌道が敷かれてあり、坑內が增加する爲鼓膜が壓迫され、耳に鹽吾及び微痛を來たし、不快感を起さしめる。昇降機を下りた所謂坪下より二百米ばかりの水平坑が外部に通じ出されて來て、昇降機に依つて通過する毎に、支柱の間にせねばならぬ。處々に直徑一尺に餘る支柱木材が、地炭粉と煤煙の爲に、模糊として見別ち得ない。自動採炭機の騷音が、機關銃の音の樣に間歇的に聞えて來る

外部に送り出される。此の邊は入氣坑で新鮮な空氣が常に流入して居るから、明るい。水平坑の終りより斜坑に入れば温度は急激に昇つて居るのみで、殆んど足下坑となる。此處にも矢張り攝氏四十度から五十度にさへも判然とは見得ない。支柱の材木を滿載した貨車達し、風速は殆んど無く、濕度は百パーセントに及ぶへ出た。左の肩先に、血故に暑い事此の上無く汗はがにじみ出てゐた

『飛道具とは、卑怯なッ』

と、口走りながら、身を構へなはすや、猛然と双ツ走らしてゐた

しかし、玄內は、鐵之助

女給さん大募集

高給者は金拾貳圓迄を給す

御希望の方は大至急御來談下さい。

平町三町目

花月

電話一七七番

◉移轉披露
賣出し
自九月廿日
至同廿四日
市價一割安
…特價提供…
（期間中景品を呈す）
山崎時計店
平町五丁目
モリタヤ東隣り

良い運動具は
良い選手を作る
○野球用具　ユニホーム類
○競技用具
斷然!!!安賣
一チーム分は特別御相談致し奉
競技用スパイク
常に新しき型と念入りな製作
弊店自慢の品
御用は　田町　大塚運動具店
四、五〇
電話七七番

斯界の權威
クロードネオン
ネオンサインの御撰擇は何より先づ品質の秀麗、耐久力、豊富、就中設備の完備が最要件でありますクロードネオンはネオンサインの發明者佛人ジョルジユ、クロード博士の特許に依つて製作されたものでありますから之等一切の條件を完備したもので不完全な特許侵害品や摸造品とは自ら其性質を異にして斷然他製品の追從を許さないものであります。
御申込次第型錄進呈御相談に應じます。
クロードネオン代理店
日東商會
電話四二八

吉田眼科病院
平町紺屋町電話六八番
醫學士　吉田久雄

夜診
胃腸肝病
內科　胃腸病科
花柳病科　性病科
皮膚科
專門
松村胃腸肝病科醫院
（平町南町電一〇七番）
晝間療

吸入用酸素
純度99%
小兒科
內科
花柳病科
平町ねずみ坂
渡邊醫院
電話一六一番

婦人科
花柳病科
井坂醫院
平町田町
（元合津醫院跡）
電話五五九番
午前宅診
午後往診
入院應需

產婦人科
花柳病科
角治商店
電話（66）一二七一　一二七二　三二五　三四五　八二四　長六五
芽場　一二七二　三四五　長六五
東京市日本橋區兜町一ノ四電略（カ）又ハ（カクチ）
東京株式取引所　短期　實物　取引員
公社債、株式現物賣買

治角線表
株式日報營業案內御報進呈
平町本町三丁目七十七銀行隣り
大谷時計店裏
電話七三番

難波醫院
內科
小兒科
入院應需
自炊の便あり
平町大町
電話五〇二番
醫學博士　難波睦

耳鼻咽喉科專門
平町田町七〇番地
醫學士　山內亨吉
電話六九一番
山內醫院
入院隨時
病室完備
（看護婦見習一名入用）

度量衡
モノサシ
マス
カリ
體溫器
寒暖計
◎糸ノ取引ヲ致シマス
開運堂
電話四〇番
開運堂藥局

萬一交渉が纏らねば 結局收用法を適用か

元署前直角撤去の潰れ地補償で 第一期終點の鋪裝停頓

元平署前市原乾物商店前の二十一日に着工するが工費屈曲撤去による鋪裝問題は六百圓で縣道と廣場の境既報の如く同店から削除された北側一間西側三間約十坪の土地家屋補償及移轉改築等の費用と當局に於ける支出可能の合計千圓內外との間に相當の懸隔ある處から買收行き惱みとなり近く開かれる町會に提案される模様であるが所轄平土木監督所では到底急速に兩者の交渉が纏らぬと觀て過般種々の關係から延期となつてゐた三丁目角東側佐川洋服店南町川岸通間の側溝工事を實現すべく交渉中だつたが地元側に於て材料購入費三百餘圓を支出する事に決定其他總工費五百圓で愈々昨十九日よりこれと共に兩側溝の不完成から未着工にあつた同町間の殘餘鋪裝工事(兩側一米二〇苑)に着工したが前記一丁目角の潰地問題に關し土木當局では左の如く語つてゐる

——向後一丁目より連接の紺屋町、長橋方部の鋪裝實現を見ても尙同地域の交渉が纏らぬ場合は結局土地收用法を適用して買收する事になるだらう云々

平驛前側溝

明廿一日より着手

縣案平驛前廣場鋪裝の前提たる側溝工事は去る十七日より材料を搬入し愈々明十九日大和田裁判長は長岡にかけ執行されるが餘興は(三六)に投票及び買收報酬とあつたが此程起訴、近く處

需要季を控へて 理想的の貯炭高

其筋去月中の調査統計

(仙臺鑛山監督局調査)八月增加をはかつたため需要の地方貯炭量は三萬五千七期を控へた現在としては理百七十噸で前年同月の二萬想貯炭量であらう五千八百五十三噸に對比すると九千九百十七噸の增加である、かゝる貯炭增は昨年石炭需要の急增で出炭に追はれた當業者が需要季の冬季に豫め備へるべく出

湯本短歌會

來日曜吹の湯で

湯本町附近短歌同好者は前本紙歌壇選者小山田滋氏指導の下に來二十三日の日曜をトし午後一時から同町吹の湯で短歌會を催すが恰もたる側溝工事は去る十七日より着手

郡下の十町村が 教員俸給を滯る

縣から嚴重なる達し

郡擔當古川視學は不況の農小川江協議會　小川江筋組合では來る二十七日臨時

女中と小店員の 希望者殆ど絶無

平職業紹介所の惱み

東京の東洋電鍍から平職業紹介所へ少年見習工五十名と云ふ求人の大量申込みあり狀態であつた女中は近來家

力わざもし兼ねる 宙ぶらりんが多數

希望の多い事務員集金人

女中小店員の拂底に反して

平支部の執行猶豫が 控訴審で實刑に變る

小名濱築港不祥事件の中心人物 元內務技師樽木篤夫 直に上告手續き

貴重な一票に 六十錢と燒酎、卵

貝泊村議戰に違反發覺

貝泊村字粂土一一木炭商御所脇虎吉(四九)は去月三日執行された同村々會議員選擧に當り同月一日午後四時頃せしめた事發覺過般來平區同村砂子櫨引業國上吉之助滑田檢事により取調べ中であつたが此程起訴、近く處

官選辯護附きで 老强盜公判

內田鶴吉 七十一歲 廿六日平支部で開廷

甘美豐汁天下一 石城梨の即賣

明後日から平署會議室で

石城果樹聯合組合の梨子品評會は既報の如く明後二十二日より二日間平署會議室で開催、二十二日午前中審查後同日午後から翌日にかけ卽賣會を行ふ筈であるが同組合では比較的優秀高價な二十世紀、菊水などは石油牛箱入れ(二貫五百匁)にする外贈答用のものを製し配達にも應ずるなど努めて顧客の便宜を圖る事になつた

青年團協議

來年の縣社神輿奉仕は六七丁目

平町青年團では昨十九日夜午後七時より住吉屋本店に役員會を開き種々協議の結果來年度縣社子鍬倉神社神輿渡御奉仕分團を嚴正抽籤の上六七丁目と決定、資金造成に關しては本團幹部の外分團より左記十氏を委員に擧げ後日協議決定することになつた

新妻春治、蛭田千代松、

新舞子及名濱築港線 縣道編入陳情

小林土木監督所長奔走

新舞子海岸は『萩』『驛』で多數新人の出

秋の運動會一束

「陸の王者」を磐炭

目指して猛進中

選手

の磐炭陸上競技部では來る二十三日福島市營グラウンドに擧行の縣体協主催選手權大會に出場すべく明後二十二日出發するが前回(一昨年)の同大會に於て百米、四百米、八百米繼走の選手權を獲得した丈けに今年も大いに期待され就中短距離中距離投擲等は同部愈々得意の繼走と共に優秀なる成績を豫想されて居る出場種目及び選手は左の如し

△百米半野、中井川△二百米同上△四百米寒河江△八百米同上△五千米同上△千五百米小貫△四百

石城酒造組合主催 (優等入選) 白馬の雪

機關銃印の自轉車

日章旗の如く輝く特長

一、全部鋼鐵、特種壓搾、製

二、自働注油、防水防塵、裝置

三、ヘット及びホークのスプリング作動

斯界に比なき數多の特長を有するが故に耐久力は普通車の五倍以上。而かも惡路でも振動を感せず、その輕快さは本車のみ有する特長で製作者の苦心の存する所であります

機關銃印の自轉車(宣傳中)　五十八圓

戰車の如く頑強だと御評判を賜りました

フタバ式超重量用リヤカー(宣傳中)廿五圓

永年修繕費のかゝらぬ

兩車の御利用を切に御願ひ申上げます

フタバ商會

平。磐川町。月見橋際

タクシーは尼子へ

車体優美＝御用命は親切迅速をモットーに！

尼子タクシー

電六四〇番

洗練されたサービスは完全に皆樣の御用を果します

秋を色どる愛のドライブ

阿部材木店

內外　磐城國平町(公園下)

建築材　阿部好利(改メ)

建具材　電話四九四番

金曜新九月乙未友引二十三日

開宿　一日